

地区団体トップに聞く

2022年度、全国の建築需要は首都圏を中心に回復に向かっているものの、中国地区では盛り上がり欠ける展開が続く。広島県鉄構工業会の山本泰徳理事長（ステンツ社長）に、22年度上期（4-9月）のファブの状況や、今後の需要見通しなどを聞いた。



広島県鉄構工業会 山本泰徳理事長

「グレードや手掛ける物件の違いによる差は大きい。春ごろからそれなりに忙しくなった印象だ。21年度は経験したことがない急激な鋼材価格の高騰を受け、多くのファブが苦勞したと思う。

中小物件需要期待できず

注状況は。「上位グレードはおおむね2年程度の仕事を確保し、中には25年度の話が出始めているところもある。ただ、関東や関西、九州などの旺盛な大型物件需要に比べると中国地区は物件が少なく、地区の物件を中心としているファブはスケジュー

市中複数の再開発プロジェクトが動き始めるため、大型物件については期待が持てそうだが」

「中小物件は今後も大きく増えることは期待できない。ここ10年で、全国的にビルの高層化など物件の大型化が進んだ。物流倉庫も今は2万トクラスが普

通にあるような状況だ。昔は1000トクラスの物件でも大きいと感じていたが、今は1000ト以下の物件が少なく、ファブ各社の加工能力にも限界があるため、1件の物件を複数のHグレードで手掛けるというケースが多くなっている」

「鋼材価格は高騰しているが、鉄骨単価が極端に値下がりすることははないだろう」

「その反動もあってか、鋼材価格の値上がりが一層、地区の建築需要の見通しは。」

「計画見直しとなった。22年度下期以降、地区の建築需要の減少は、鋼材価格の高騰に対応できるファブが減

っている。技術者の多いファブに仕事が集まるようになっており、人手不足の解消は急がなければならない」

「広島県鉄構工業会での取り組みは。」

「ファブ業界を対外的にPRしていく活動はこれからも継続していく。また、人材確保に向けた活動にはそれなりの予算も必要だ。そのため、今後は共済事業の幅を広げてきたいと考えている」

「来年、広島県鉄構工業会は設立50周年を迎える。」

「21年度に比べ、22年度上期の県内ファブの稼働状況はどうだったか。」

「現在のファブの受

「来年の5月25日に式典を開く。すでに準備を進めており、80社の会員がいる組合として、盛大なものにしたいと考えている。今後もファブ業界の地位向上に向け、全力で活動していく方針だ」

（長谷 幸三）